

IKUO HIRAYAMA

— 日本画家・平山郁夫が描いた「金華山の朝陽」 —

描かれた 神体島



撮影：鹿井清介

期間

2017.8.9(水) ▶ 15(火)

午前9時～午後5時

場所

石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館

(復興商店街・おしかのれん街向かい)

〒986-2523 石巻市鮎川浜湊川65番地 Tel.0225-98-9950

主催 牡鹿半島・思い出広場実行委員会(東北学院大学博物館内)

入場
無料

期間

2017.8.19(土) ▶ 9.28(木) 午前9時30分～午後5時

場所

東北学院大学博物館

ごあいさつ

東北学院大学では、東日本大震災後に展開された文化財レスキュー事業で旧牡鹿町で収集された文化財の応急処置を担当し、大学生たちがクリーニングや脱塩作業にあたってきました。この活動と同時並行で、被災した文化財を地域のみなさんに見ていただく展覧会を、旧牡鹿公民館やサンファン館、せんだいメディアテーク等を会場としてこれまで14回実施してきました。

今回は、これまでの展示会や文化財レスキュー資料の調査研究によって浮き彫りになりつつある、牡鹿半島の人々の信仰や年中行事等をテーマに展示を企画しました。牡鹿半島の起伏ととんだ地形や、外洋に近く水産資源豊富な海は、いきいきとした民俗文化をはぐくんできました。とりわけ、島そのものがご神体である、いわゆる神体島としての金華山は、東北のみならず全国に名の知れた漁民の信仰の聖地です。今回の展示では学生が展示を通じて来場者のみなさんの思い出をうかがい、牡鹿半島の暮らしを知るための情報をさらに増やすことを目的としています。

この魅力ある牡鹿半島や離島の風景に挑んだ画家がいました。巨匠と名高い日本画家の平山郁夫です。彼は、「奥の細道」の芭蕉の歩いた道を追跡しながら東北の風景を描く、一連の素描作品を残しました。今回の展示では、鮎川でのスケッチの様子を伝える写真やスケッチブック、そして描き出された金華山の素描作品「金華山の朝陽」「金華山 黄金山神社本殿」を展示します。牡鹿半島の人々の心のうちに、いつも抱かれ続けている三陸の海と離島の風景を、見事に描き出したような平山郁夫の作品を、ぜひ楽しんでいただきたいと思います。

被災地での文化創造活動に対し、作品の出陳に格別の配慮をいただいた平山郁夫美術館様、および平山郁夫シルクロード美術館様には、心より感謝申し上げます。

東北学院大学文学部歴史学科

教授 **加藤 幸治**



平山郁夫「金華山の朝陽」1997年制作



平山郁夫「金華山 黄金山神社本殿」1997年制作

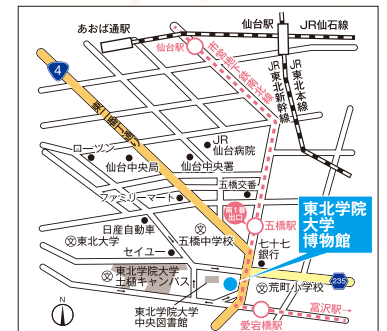
■ 石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館 (復興商店街・おしかのれん街向かい)



石巻市鮎川浜渡川165番地 Tel.0225-98-9950



■ 東北学院大学博物館



仙台市青葉区土樋一丁目3-1 Tel.022-264-6920